

令和6年度 大田区立雪谷中学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

令和7年3月7日

YAS Yukigaya Active School ～常に動き続け、「積極的・自発的」(active)に「より良い学校」を目指す～

【目指す生徒の姿】
1) 自己や他者の良いところに目を向けることができ、自己肯定感が高い生徒 2) コミュニケーション能力、表現力を持ち、他者と協働できる生徒 3) 学力・体力の向上を目指し、ねばり強く努力する生徒

【目指す学校教育の姿】
1) わかりやすく、生徒が主体的に学べる授業 2) 様々な個性を持つすべての生徒に対する温かく根気強い支援 3) 保護者の思いを理解した、良きパートナーとしての誠意ある連携

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄											
								評価	人数	コメント									
生予個 き測別 る困目 力難を な1 育未 成来 し社 ま会 すを 創 造 的 に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	学校評価アンケート 生徒項目1 「学級活動、行事、委員会、部活動等で、友達と話し合ったり、協力しながら活動することができている」	4: 180%以上 280%以上	4	生徒項目1「学級活動、行事、委員会、部活動等で、友達と話し合ったり、協力しながら活動することができている」への肯定的回答は94%であった。成果指標「4」にあたる9割以上の生徒が、「生徒間のコミュニケーションが円滑で、様々な活動において互いに協力することができている」と感じていることがわかる。雪谷中では学級活動や行事、部活動など、学校生活の様々な場面で、友達と話し合い、協力して、切磋琢磨しながら目標を達成する活動を大切にしている。それらの活動によって、多くの生徒が「行事等後の達成感があった」「自分の意見が前提の意見として反映されている」と感じている。(面談・面接練習等での聞き取りより)今後も他者を尊重しながら、協働する活動を推進し、生徒のコミュニケーション能力や自己肯定感の向上に努めたい。	A	10	・CS事業で行っている「雪中祭り」でも、生徒同士の協調性をもった行動が見られています。 ・結果から、授業が工夫されており、また、子ども達も積極的に参加・協力していると思いました。 ・研究発表会では先生方が積極的にICTの活用に取り組んだ成果が伝わりました。生徒の学習意欲につながっていました。 ・生徒が自ら活動できているという肯定的回答が高いこと、また授業の工夫についても同じであることから、目標が達成されていることがわかる。 ・運動会で友達と協力しながら行動している姿を垣間見ることができました。94%の肯定的な回答は素晴らしいです。 ・ICTを活用した「わかりやすい」授業づくりは先生方のご努力の賜物だと思います。ありがとうございます。								
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。																
			②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。						4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3		の肯定的回答の%	3: 170%以上 270%以上	B	0				
									3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。										
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。		4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	1: 160%未満 260%未満		C	0										
				3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。															
				4:「おおむねできた」と全教員が回答した。				3		D		0							
				3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。															
		お世個 お界別 たと目 をつ標 担な2 うが る国 材際 を都 育成市 し ま す		英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。				4		学校評価アンケート 生徒項目3 「英語の授業で、ペアワークなど英語でやり取りする活動に積極的に取り組んでいる」	4: 180%以上 280%以上	3	生徒項目3「英語の授業で、ペアワークなど英語でやり取りする活動に積極的に取り組んでいる」への肯定的回答は86%であった。ペアワークやグループ活動は、実際に英語を使う機会を増やすための効果的な手法であり、ペアワークはクラス全体の前で発表するよりも心理的負担が少なく、取り組みやすい形式である。そのため、多くの生徒が安心して参加できる状況が整っている。また、教員がペアワークの進め方や目標を明確にし、生徒が取り組みやすいようサポートしている。今後は、ペアワークだけでなく、個人で取り組むタスクやグループディスカッションも加え、生徒の多様な学び方に対応したい。生徒項目4「環境問題など地球規模の問題を自分事としてとらえ、その解決に向けて自分なりに考え、行動している」への肯定的回答は79.5%であった。生徒の約8割近くが地球規模の問題を「自分事」として考え、行動していることは、学校や社会での環境教育がある程度成果を上げていることを示している。また、近年、SDGs(持続可能な開発目標)や学校での環境学習の普及により、生徒たちが環境問題を認識し、関与する意識が高まったと考えられる。21%の否定的回答の意味としては、環境問題の重要性は理解しているも、具体的な行動の仕方が分からない生徒がいる可能性がある。また、環境問題に関心が薄い、あるいは「自分が行動しても効果がない」と感じている生徒が存在することも考えられる。より実践的な環境教育を導入したり、生徒一人ひとりが簡単に参加できる具体的なアクションプランの提案し、行動の意義を実感させることが必要である。	A	9	・①について教師が4の評価にもかかわらず、生徒の肯定的回答は86%、90%を超えてこないところはまだ何か達成感を得られる授業の方法があるのかなと感じた。②③については中学生で学び始め、継続の必要がある課題。評価は相等かと思えます。 ・英語の授業でペアワークで話す活動を十分に取り入れていることが分かりました。どの生徒も自分で考えた英文を伝えようとしていました。・生徒項目4についてはより実践的な環境教育の導入が求められる。 ・"SDGsは社会人でも"自分事"にすることが難しいテーマでもあるので、体験や経験など学外との連携も活用していくことを期待します。 ・英語の授業にて受動的ではなくグループ活動など実践的な授業工夫が行われていると思いました。 ・環境問題については身近な問題をつつけ「自分事」として積極的に取り組めるのではないかと思います。 ・世界をつなげるには英語は不可欠です。さまざまな学び方で興味をもって学習できたらと思います。環境問題等の地球規模の問題に対処することはとても難しい課題だと思います。学級などで話し合い、今できることから行動してみたいいかがでしょうか。	
						3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。													
			②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		3	の肯定的回答の%							3: 170%以上 270%以上	B		1
						3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。													
	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。				3	2: 160%以上 260%以上	C			0									
	3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。																		
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。				3												
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。																

	みり。	③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		1: 160%未満 260%未満			D	0		
一、個人別の目標と個性と能力を育成を發揮する	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	学校評価アンケート 生徒項目5 「友達を尊重し、学校の決まりや集団のマナーを、きちんと守って生活している」 生徒項目6 「前向きに学習に取り組むことができている」	4: 180%以上 280%以上	4	生徒項目5「友達を尊重し、学校の決まりや集団のマナーを守って生活している」とする意識が高い。こうした生徒の意識が、落ち着いた学校の雰囲気を作っていることがわかる。みんなが決まりやマナーを守っていることにより、生徒たちは安心して生活し、自己の伸長に努めることができる。今後も落ちついた生活を送ることができるよう、きめ細かな生活指導に努めたい。	A	9	・雪中の生徒は制服もきれいに着用し、学校の決まりやマナーを守り落ち着いて生活できていると思います。生徒が前向きに学習できるようにGSの方々が協力くださっていることは感謝です。心身ともに健康作りには「早寝・早起き・朝ごはん」はとても大切です。肯定的回答88%は家庭力のある証拠です。 ・先生方の評価に対し、マナーやきまりを守って生活できていると思う生徒が多くいると感じたが、学習への取組や生活習慣については80%台とまだまだ成長していける部分がある。回答になっていてこれからの成長が期待される。 ・基本的なルールやマナーを意識し、日々生活している結果だと思いました。 ・とても素直で表現豊かな生徒が多いと感じています。そうした校風をつくれていることに感謝します。 ・学校行事を通して友達と協力する態度、互いのよさを認め合う態度が育っていると感じました。	
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			3:170%以上 270%以上		生徒項目6「前向きに学習に取り組むことができている」への肯定的回答は88%であった。各教科で学習の取り組み方や学習方法などを指導し、定期考査前にはまとめの資料を配布するなど、生徒が学習しやすいよう支援している。また、連絡ノート「忘れないぞう」に学級担任がコメントを記入することで学習や生活への助言を行っている。個別支援としては、定期考査前に「補習教室」を実施し、夏季休業中には「補習教室」やコミュニティスクール主催の「自習教室」を実施した。大部分の生徒が前向きに学習に取り組んでおり、今後も引き続き支援に努めたい。				
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			3		2: 160%以上 260%以上	生徒項目7『「早寝・早起き・朝ごはん」に取り組む、進んで体を動かすなど、自分の健康に気をつけて生活している。』の肯定的回答の%	C		0
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。					1: 160%未満 260%未満				
				4:「おおむねできた」と全教員が回答した。								

			④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3					D	0													
学 校 別 力 目 ・ 標 教 師 力 を 向 上 さ せ ま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	学校評価アンケート 生徒項目8 「授業では、話し合い活動や発表する活動で、友達の意見を聞いたり、自分の考えを伝えたりすることができている」 生徒項目9 「授業では、自分で課題を設定するなど、自分の考えを生かせる活動がある」 の肯定的回答の%	4:180%以上280%以上	4	生徒項目8「授業では、話し合い活動や発表する活動で、友達の意見を聞いたり、自分の考えを伝えたりすることができている」への肯定的回答は92%であった。対話的な学びによって自分の意見と他者の意見を比較することで生徒自身の視野を広げ、理解を深めて、思考力・判断力・表現力を育成することは、生きた学力の獲得に欠かせない。大田区の中学校では毎年授業改善推進プランを作成して授業の改善を行い、学力向上に取り組んでいるが、雪谷中学校では、ICT機器を利用し、主体的な学びや対話的な学びを取り入れることに力を入れている。今後も高い意識をもって学力向上に取り組んでいく。 生徒項目9「授業では、自分で課題を設定するなど、自分の考えを生かせる活動がある」への肯定的回答は83%であった。主体的な学びを重視する授業が効果を上げていることを示している。また、生徒が自ら課題を設定することで、個々の興味や関心に基づいた学びが提供されている。これにより、学習意欲や達成感が高まっている。教員側で生徒が考えを発揮できるようにするための指導や活動設計(グループワーク、ディスカッション、プロジェクト型授業など)が実践されている。	A	9	・小中一貫教育の日の授業公開・研究発表会の授業など課題意識をもって学習し、取り組んでいる姿が見られました。 ・教師の授業力向上を保護者にも積極的に知らしめることを、学校公開を通じて出来るとう良いと思います。 ・IT化を積極的に取り入れ、授業が工夫され、子ども達も活用している様子がわかりました。 ・先生方の評価と生徒の肯定的な回答の割合がだいたい一致していると思う。 ・友達の意見を聞き、自分の考えを伝えることは今後大切です。臆せず実行できる生徒がとても多いことは素晴らしいです。 ・多くの人は興味のあることから探究心が芽生え、達成感につながると思います。様々な方法で自分の考えを活かせる学習が出来ていることは有難いです。												
			②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。				4:「おおむねできた」と全教員が回答した。						3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	3:170%以上270%以上	B	1							
							3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。											C	0					
							2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。													D	0			
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。	3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	3	1:160%未満260%未満																		
			3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。																					
			2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。																					
			1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。																					
		た 自 個 め 分 別 の 学 し 標 び く 5 を い き 支 援 い き と 生 き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3			学校評価アンケート 生徒項目10 「いじめを許さない気持ちを持ち、友達とはお互いを尊重して、仲良く生活することができている」 生徒項目11 「困ったことがあるときは、先生に悩みを話したり、相談できる」 の肯定的回答の%	4:180%以上280%以上								4	生徒項目10「いじめを許さない気持ちを持ち、友達とはお互いを尊重して、仲良く生活することができている」への肯定的回答は97%であった。この項目も仲間意識の強化や学校での学級活動や部活動を通じて、友達との信頼関係を築く機会が増え、生徒が互いに尊重し合う文化が醸成されていると考えられる。また、生徒が自分の意見や感情を表現する機会が増え、その結果、対人関係での尊重や協力が向上したことが考えられる。この項目は、中学校生活の基盤として、雪谷中学校が最も重視している取り組みであり、いじめを決して許さず自他を尊重する姿勢は、あらゆる教育活動を通して繰り返し指導している。また、雪谷中学校の生徒たちが友達を大事にし、明るく穏やか、そして朗らかに生活しようとする姿勢は、ご家庭の教育力の高さにも支えられている。ご家庭の教育に感謝したい。同時に、数値が低いのが、2%の生徒が「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」とマイナス回答している。自分が周囲に溶け込めていない、または他人との信頼関係が薄いと感じている生徒が含まれている。学校内でのカウンセリングや、より個別に配慮した教育が重要である。現状を真実に受け止め、人間関係作りや対人関係に困っていたり、他者とのコミュニケーションに課題のある生徒たちの支援に努めたい。学校では、生徒間の小さな問題やトラブルを話題にした連絡会を毎週行い、教員間での情報共有を密にすることに取り組んでおり、いじめや人間関係トラブルの早期発見に努め、組織的に解決を図る態勢を作っている。今後も組織的にいじめの解消に取り組む、すべての生徒が安心して生活できる学校づくりに努める。 生徒項目11「困ったことがあるときは、先生に悩みを話したり、相談できる」への肯定的回答は83%であった。教員と生徒との相互の信頼関係を確率するよう取り組んでいる。日々の何気ない声かけから信頼関係築くように努力している。しかし、SNSのトラブルなど、大人に話しくく、友人関係や事態が悪化してから先生に相談するケースも見られた。相談には丁寧に対応するとともに、重大な悩みを自分一人で抱え込むことがないよう、学校以外の相談機関との連携や紹介も行っている。	A	10	・先生方のご苦労は絶えないと思いますが、全生徒が楽しく安心して学校生活を送れることを祈っています。「困ったことがあるときは先生に相談できる」と83%の肯定的回答があったのは生徒と先生の信頼関係が構築されている証だと思います。 ・いじめについては大変センシティブな部分があるが、97%の生徒がいじめはいけないことと、友達と仲良く出来ているとの回答に安心を覚えます。先生方の評価3の方に気が向いてしまいました。 ・子ども達がだれかに相談できる環境が用意され、子ども達も安心して生活できるよう取り組まれていると思いました。 ・生徒と会話しても、“いじめ”について特記する課題はないようですので継続していけると良いと思います。先生に悩み相談できるかが83%というのは嬉しい結果です。ありがとうございました。 ・小学校で課題のあった生徒が中学校では先生方、友達との関わりを通じて成長したことが分かり、大変嬉しく思います。授業だけでなく部活動でも子ども達を丁寧に指導してくださっているお陰です。	
					②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。						4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。		3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	3										2:170%以上270%以上
											3:80%以上100%未満の教員が回答した。				C	0								
											2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。						D	0						
③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	1:160%未満260%未満																		
	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。																							
	2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。																							
	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。																							

